

# 紙屋敦之教授 年譜・主要著作目録



## 年 譜

一九四六年六月二四日 鹿児島県薩摩川内市生まれ

### 【学歴】

- 一九六五年 三月 鹿児島県立甲南高等学校卒業
- 一九六五年 四月 早稲田大学教育学部入学（～一九六九年三月卒業）
- 一九六九年 四月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程入学（～一九七二年三月卒業）
- 一九七四年 四月 同大学院博士課程入学（～一九八一年三月単位取得満期退学）
- 一九九一年 六月 文学博士（早稲田大学）

### 【職歴】

- 一九八七年 四月 福岡大学人文学部助教授（～一九九二年三月）
- 一九九二年 四月 早稲田大学第一・第二文学部助教授、翌年教授（二〇〇四年より文学学術院）
- 一九九四年 九月 早稲田大学第一文学部学生担当教務主任（～一九九六年九月）

- 一九九八年 二月 同大学学生部長（～二〇〇二年一月）  
 二〇〇二年 一月 同大学図書館長（～二〇〇六年九月）  
 二〇〇三年 四月 大学入試センター日本史部会委員・部会長（～二〇〇五年三月）  
 二〇〇七年 四月 早稲田大学系属 早稲田中学校・高等学校校長（～二〇一一年三月）  
 二〇一〇年 四月 早稲田大学バスケットボール部部长（～二〇一七年三月）  
 同 一月 早稲田大学理事（学生部門総括、～二〇一四年一月）  
 同 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）所長（～二〇一四年一月）  
 同 早稲田大学系属 早稲田高等学校校理事長（～二〇一四年一月）  
 同 早稲田大学系属 早稲田渋谷シンガポール校理事長（～二〇一四年一月）

## 主要著作目録

### 著書

- 一九九〇年 二月 『幕藩制国家の琉球支配』 校倉書房  
 一九九七年 二月 『大君外交と東アジア』 吉川弘文館  
 二〇〇三年 八月 『琉球と日本・中国』 山川出版社  
 二〇〇九年 四月 『歴史のはざまを読む―薩摩と琉球―』 榕樹書林  
 二〇一三年 三月 『東アジアのなかの琉球と薩摩藩』 校倉書房  
 二〇一七年 一月 『梅北―揆の研究―』 南方新社

### 共著

- 一九九五年 四月 『日本の近世―地域と文化―』 梓出版社

共編著

二〇〇二年 九月 『展望日本歴史14 海禁と鎖国』 東京堂出版

論文

一九七五年 九月 「梅北一揆の歴史的意義―朝鮮出兵時における一反乱―」 『日本史研究』 第一五七号

一九七六年 一月 「琉球支配と幕藩制」、歴史学研究会編『世界史の新局面と歴史像の再検討』 青木書店

一九七八年 一月 「幕藩制下における琉球の位置―幕・薩・琉三者の権力関係―」、北島正元編『幕藩制国家成立過程の研究』 吉川弘文館

一九八〇年 三月 「島津氏の琉球出兵と権力編成」 『沖縄史料編集所紀要』 第五号

一九八三年 九月 「琉球国司号―近世日中関係史の一視点―」、北島正元編『近世の支配体制と社会構造』 吉川弘文館

一九八五年 九月 「七島郡司考―明清交替と琉球支配―」 『南島史学』 第二五・二六合併号

一九八七年 四月 「日本近世の統一と韃靼」、田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』 吉川弘文館

同 一〇月 「亀井琉球守考―豊臣政権の琉球支配―」、地方史研究協議会編『琉球・沖縄―その歴史と日本史像―』

雄山閣

同 一一月 「幕藩制国家の成立と東アジア」 『歴史学研究』 第五七三号

一九八八年 二月 「薩摩の琉球侵入」 『琉球新報』 新琉球史第三四～四九回、琉球新報社。のちに琉球新報社編『新琉球史 近世編（上）』 琉球新報社、一九八九年九月、に再録。

同 三月 「琉球使節の最後に関する考察」 『七隈』 第二五号、福岡大学歴史研究部

同 八月 「江戸上り」 『琉球新報』 新琉球史第一四七～一五六回、琉球新報社。のちに琉球新報社編『新琉球史 近世編（下）』 琉球新報社、一九九〇年三月、に再録。

同 一二月 「近世の日中貿易について」 『歴史と地理』 第四〇〇号、山川出版社

一九八九年 一〇月 「対明政策と琉球支配―異国から「異国」へ―」、深谷克己ほか編『幕藩制国家と異域・異国』 校倉書

房

一九九〇年 三月 「琉球使節の解体」、琉球王国評定所文書編集委員会編『琉球王国評定所文書』第五卷、浦添市教育委員会

同 一〇月 「幕藩制国家の蝦夷地支配」『思想』第七九六号、岩波書店

一九九一年 三月 「中山王から琉球国司へ、そして中山王へ」『文明のクロスロード』第三六号、博物館等建設推進九州会議

同 「九州の国際関係―鎖国と東アジア―」、マリアスB・ジャンセン編『九州と日本の歴史』シンガポール国立大学日本研究学科

一九九二年 三月 「梅北一揆の伝承と性格」『史観』第一二六冊、早稲田大学史学会

同 「梅北一揆と山の寺」『七隈史学会会報』第五号、福岡大学七隈史学会

同 一〇月 「日本の鎖国とアジア」、地方史研究協議会編『異国と九州―歴史における国際交流と地域形成―』雄山閣出版

一九九三年 二月 「大君外交と近世の国制」『早稲田大学文学研究科紀要(哲学・史学編)』第三八輯

同 一二月 「琉球・アイヌと近世国家」『岩波講座日本通史』第一一巻近世一、岩波書店

一九九四年 三月 「西と東の異域」、青木美智男編『日本の近世17 東と西 江戸と上方』中央公論社

同 九月 「蝦夷地の支配と韃靼」『ACTA ASIATICA』第六七号、東方学会

一九九五年 一月 「大君外交と日本国王」、田中健夫編『前近代の日本と東アジア』吉川弘文館

同 五月 「北京の琉球使節」『歴史手帖』第二三巻第六号、名著出版

同 八月 「島津氏の侵略とその背景」『那覇市史 通史篇第一巻 前近代史』那覇市役所

一九九六年 三月 「岡山藩と対外関係」『岡山藩の支配方法と社会構造』、一九九四・九五年度科学研究費補助金一般研究(B) 研究成果報告書、研究代表深谷克己

- 同 一〇月 「日本国王と琉球国司」、高良倉吉ほか編『新しい琉球史像―安良城盛昭先生追悼論集―』榕樹社
- 同 一二月 「徳川家康と琉球王の対面に関する一史料」『日本史攷究』第二二号、日本史攷究会
- 一九九七年 五月 「大君外交の海外情報ルート」、岩下哲典・真栄平房昭編『近世日本の海外情報』岩田書院
- 同 一二月 「鉢植えの大名たち」・「海は閉ざされたか」、荒木敏夫ほか編『日本史のエッセンス 歴史が語るもの』有斐閣
- 一九九八年 七月 「薩摩と琉球―琉球の主体性を考える―」『文学』第九卷第三号、岩波書店
- 一九九九年 二月 「薩摩藩の琉球支配と中国情報」、鹿児島県歴史資料センター黎明館編『黎明館開館15周年記念特別展 海洋国家・薩摩―薩摩に鎖国はなかった―』図録、鹿児島県歴史資料センター黎明館
- 同 三月 「東アジアのなかの琉球」『沖縄文化研究』第二五号、法政大学沖縄文化研究所
- 同 一二月 「琉球の慶賀使について」『歴史と地理』第五三〇号、山川出版社
- 二〇〇三年 三月 「東アジアの中の蝦夷地」『平成14年度普及啓発セミナー報告集』、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 二〇〇四年 一月 「梅北二揆における井上弥一郎とその後」、日本史攷究会編『日本史攷究と歴史教育の視座』早稲田大学メディアアミックス
- 二〇〇五年 二月 「琉米修好条約の締結と首里王府―総理官・布政官を中心に―」『アジア歴史研究所シンポジウム報告集 近代移行期の東アジア―政治文化の変容と形成―』、早稲田大学アジア歴史文化研究所
- 二〇〇六年 八月 「琉球国家の成立」・「幕藩制国家と琉球国家」、宮地正人ほか編『新体系日本史Ⅰ 国家史』山川出版社
- 同 一二月 「琉球の中国への進貢と対日関係の隠蔽」、早稲田大学アジア地域文化エンハンシング研究センター編『アジア地域文化の発展―21世紀COEプログラム研究集成―』雄山閣
- 二〇〇七年 三月 「琉球の石高制と稲作」、海老澤衷編『講座水稻文化研究Ⅲ ジャポニカの起源と伝播―伊予国弓削島

荘の調査」早稲田大学水稲文化研究所

同

「シヤクシャインの戦いと対馬藩」「対馬調査報告集」、二〇〇五～二〇〇七年度科学研究費補助金基金研究(B)『藩世界と公儀―九州地方を中心に―』の研究成果、研究代表深谷克己

二〇〇八年 五月

『日本国王』復号―新井白石の国家構想―、歴史科学協議会編『天皇・天皇制を読む』東京大学出版会

同

「朝鮮通信使の接待役と大名」『藩世界と公儀―九州地方を中心に―』二〇〇五～二〇〇七年度科学研究費補助金基金研究(B) 研究成果報告書、研究代表深谷克己

二〇〇九年 五月

「七島・七島衆と東アジア海域」、新川登亀男・高橋龍三郎編『東アジアの歴史・民族・考古』雄山閣

同

「王国末期首里王府の異国人対応と薩摩藩」、深谷克己編『東アジアの政治文化と近代』有志舎

二〇一〇年 二月

会

「中山政権と薩摩」、沖縄県文化振興会史料編集室編『沖縄県史 各論編3 古琉球』沖縄県教育委員会

二〇一一年 二月

「近世の南西境界史」『日本史の研究』第二三五号、山川出版社

二〇一二年 二月

「一五〇〇年朝鮮国王国書について」『宮崎調査報告集』、二〇一〇～二〇一二年度科学研究費補助金基金研究(B)『藩世界と東アジア世界―西日本地域を中心に―』の研究成果、研究代表紙屋敦之

同

「大君外交と東アジア」、ハノイ国家大学付属人文社会科学大学東洋学部日本学科ファン・ハイ・リン編『日本研究論文集 日本とアジア』世界出版社

二〇一三年 三月

「江戸立の旅役所について」『藩世界と東アジア世界―西日本地域を中心に―』二〇一〇～二〇一二年度科学研究費補助金基金研究(B) 研究成果報告書、研究代表紙屋敦之

同

七月

「寛政八年琉球使節の江戸上りについて」『藝能史研究』第二〇二号、藝能史研究会